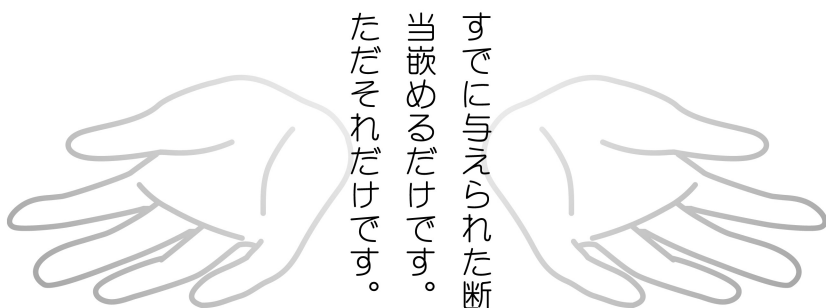




非実在 探偵小説研究会

17号



すでに与えられた断片を、
当嵌めるだけです。
ただそれだけです。

足住公達

エアミステリ研究会

非実在探偵小説研究会17号 目次

企画

企画1 読者への挑戦状

首切りと死に際の伝言の冒険

墮落る

幸福の王子の冒険

解決片

反転迷宮の殺人

探偵が■■に当たるまで

企画2 二〇一八年度エアミス研ミステリランキング

..... 202

その他

ティーンズハートミステリレビュー

〈連載〉富士見ミステリー文庫ガイド 第八回

麻里邑圭人 207
ないとー 238

表紙・扉ページ

ウスタアヤ

麻里邑圭人 6

神崎蒼夜 37

森煮豆仁 70

紫藤はるか 115

足住公達 134

根倉野蜜柑 196



今回のお題競作企画は「読者への挑戦状」です。

作者と読者の知恵比べとも言える「読者への挑戦状」入りミステリ。エラリー・クイーン作品の数々や、不連続殺人事件、月光ゲーム……と思いつく名作のタイトルを上げていくだけでも枚挙にいとまがありません。

この企画に今回は6名が挑戦しました。正統派から変化球までバラエティーに富んだ6作品が集まりました。

読者の皆様もぜひメモ帳片手にお気軽に「挑戦状」を楽しんでいただければと思います。

首切りと死に際の伝言の冒険

麻里邑圭人

【問題編】

【主な登場人物】

水谷真綾 みずたに まあや

中田桐子 なかつ たうこ

醍醐恵美 だいご えみ

高科正史 たかし まさふみ

由比藤司 ゆい とうつかさ

日下光彦 くさか みつひこ

風見郁也 かざみ いくや

私。S * * 大学推理小説研究会会員。

真綾の親友。S * * 大学推理小説研究会会員。

真綾の後輩。S * * 大学推理小説研究会会員。

真綾の後輩。S * * 大学推理小説研究会会員。

真綾の先輩。S * * 大学推理小説研究会会長。

真綾の元恋人。元S * * 大学推理小説研究会

会員。

真綾の甥。

……

それは今まで見たことがない、恐ろしくも奇妙な光景だった。

「こんなことって……」

そう言ったきり唇まで真つ青にさせて立ち尽くす恵美を横目で見て、無理もないなと思う。私だって自分一人だけの時にこの状況に遭遇したら、きっと同じ反応をしていたと思う。でも今は他の人間が取り乱しているのを見たことで却って冷静になった。

そして、そんな私と同様、この状況で冷静な人間がもう一人——いや、正確には冷静と言うにはちよつと違うかもしれない。

「ほう。これはなかなか面白い状況じゃないか」

何も知らない人間が聞いたら目を剥きそうな台詞を堂々と口にして、ニヤリと三日月形に口元を吊り上げる。

それから彼は取り乱していない私を見て同類だとも思ったのか「そうは思わないかね、マ―ヤ君？」と同意を求めてきた。

無論、それに対する私――水谷真綾の答えは決まっている。

「……いいえ。私は全くそうは思いませんし、この状況でそんなことが言えるなんて会長の正気を疑いますね」

そうにべもなく言い返すと、ジロリと非難を込めた視線を向ける。

すると会長――由比藤司は案の定、全く堪えた様子もなく、それどころかますますニヤニヤ笑いを浮かべると歌うような口ぶりで

「そうかい、それは残念だ。自分としてはこの状況は盆と正月がいつぺんにきたような感じなのだがね」

「……」

呆れてものと言えないとは正にこのことだ。一体この状況のどこを見たらそんな台詞が出てくるのだろう。

私は、ちらりと腕時計に目を落とした。

時刻は午後十時半――私たちは今、叔父が所有している別荘の外にある納屋にいた。ここに来るのは掃除の時以来だが、蛍光灯の明かりが照らし出した内部の光景は基本的にはどこにでもある納屋と変わらない。八畳ほどのスペースに押し込められた電気ドリルや金づちといった工具類、大きなシャベルやクワなどの園芸用品、使わなくなったクロ―ゼット、ビニール紐で縛られた雑誌の束、ガムテープで封をされた段ボール箱等々……。そんな中、明らかに浮いているものが二つあった。一つは、部屋の中央――打ちっぱなしのコンクリートの床にできた赤茶色の乾いた血だまりと、その傍らに置き去りにされた血まみれのノコギリ。そして、もう一つは左奥の壁際に横たわる、黒いライダースーツ姿の目下の首なし死体だった。ちなみに首がないにも拘わらず目下だと分かったのは、高校時代にアメフトで鍛えられた大柄がつつしりとした胴体もさることながら、その胴体のすぐそばに彼の首が転がっていたからだ。よく見ると胴体の左胸あたりからはドライバーの柄のようなものによつきりと生えている。恐らく、ドライバーもノコギリもこの納屋にあったものだろう。そしてドライバーが刺さった部分からの出血があまり見られないところから察するに、血だまりは首を切断した際にできたものと思われ

る。だとすると血だまりと死体との距離がこんなに離れているのは明らかにおかしいわけだが、それもそのはず、死体と血だまりの間を繋ぐように床に点々と赤茶色の血の断片——犯人が死体を引きずった跡だ——が残されていた。

それらを見て私がまず真つ先に思ったのは「やはり由比藤が日下を見たと言っていたのは見間違ひではなかったのか」ということだった。だが、そんな感慨も死者が伸ばした血に染まった右手の先を見た瞬間、たちまち頭から吹き飛んでしまう。

死者が伸ばした右手の先——コンクリートの床の上にはやや歪んではいるものの、明らかに「マーヤ」と読める赤い血文字が残されていた。それを見て、私が当惑したのは言うまでもない。

由比藤がそんな私を見て、ニヤニヤ笑いを浮かべたまま聞いてくる。

「浮かない顔だね。……もしかして君がやったのかい？」

「そ、そんなわけじゃないですか！ 私は全く心当たりがありません。というか、私を疑う以前にこの状況はどう見たっておかしいじゃないですか！」

そう。首を切られた死体がダイイング・メッセージを残せるわけがない。だからこれは犯人が残した偽のダイイン

グ・メッセージに違いないのだけど……一体、誰が？ 何のために？

——と、その時、私の思考を遮るようにドタドタとこちらに向かって駆けてくる騒々しい足音が聞こえてきた。

（高科が戻ってきたのだろうか？）

そう思って開け放たれたドアの方に視線を向けると案の定、高科が再び息を切らせながら姿を現した。

……しかし、何だか様子がおかしい。

高科は私たちを見ると、出ていった時よりも更に青ざめた顔で言った。

「た、大変です！ 実は——」

1

話は八時間前——三月二十日の午後二時半に遡る。

続きは非実在探偵小説研究会17号
でお楽しみください。

企画2 2018年度エアミス研ミステリランキング

エアミス研研究会が選んだ2018年度のミステリランキングです。2017年9月～2018年10月の間に発売された国内ミステリ新刊書を対象としています。投票者が選んだ5作品を1位：5点、2位：4点…5位：1点として集計しました。

各作品レビュー：麻里邑主人

【総評】

今回ベスト10に二作品（「メーラーデーモンの戦慄」「探偵AIのリアル・ディープラーニング」）ランクインさせた早坂吝もさすがといったところだが、もう一つの注目株としてはやはり対象期間ギリギリの10/31発売だったにも拘わらず2位にランクインした鵜林伸也「ネクスト・ギグ」だろう。一方7位には刀城言耶シリーズの最新作・三津田信三「謫霊の如き祀るもの」がランクインしており、ランキング常連の貴祿を示す形となった。ベスト10以外の注目作では辻真先「深夜の博覧会 昭和12年の探偵小説」で、年齢の衰えを感じさせない作品をコンスタントに発表するその姿勢は驚嘆に値する。

第1位 早坂吝「メーラーデーモンの戦慄」【29点】

援交探偵・上木らいちシリーズの集大成とも言えるべき作品。特筆すべきはノベルスで200頁弱の中にこれでもかと詰め込まれた趣向の数々であり、それと同時に前作「双蛇密室」から続くある人物の復活の物語を両立させた技巧には脱帽と言わざるを得ない。

第2位 鵜林伸也「ネクスト・ギグ」【28点】

作者の長編デビュー作。「ロックとは何か？」を追求することが最終的にホワイダニットやハウダニットと繋がることで犯人の行動に大いなる説得力を齎している点が実に素晴らしく、正当派の犯人当てとロック小説を高い次元で融合させた傑作と言っていいだろう。

第3位 白井智之「少女を殺す100の方法」【24点】

鬼畜本格の書き手として知られる作者の初短編集。少女20人の死をテーマに紡がれる五つの本格ミステリはいずれも×指定認定待ったなしの鬼畜ぶりだが、中でも「少女が町に降ってくる」の長編並みの密度には思わず唖らされること請け合いである。

第4位 阿津川辰海「星詠師の記憶」【21点】

未来視できる水晶を巡る殺人事件を扱った特殊設定ミステリ。逆転裁判シリーズを作った巧舟のオマージュが目立った前作「名探偵は嘘をつかない」に対し本作は裁判物ではないものの、読んでみるとそこかしこに逆転裁判6や大逆転裁判の影響が見て取れるだろう。

第5位 市川憂人「グラスバードは還らない」【16点】

デビュー作から続くシリーズの三作目。本作はリアルタイムで進行する高層ビルでの爆破テロというパニックサスペンス要素によりシリーズ中最も読ませる内容に仕上がっている。詰め込みすぎな謎解きが賛否分かれるところだが詩的な持ち味は健在である。

第6位 大山誠一郎「アリバイ崩し承ります」【15点】

時計店の女店主がアリバイに纏わる七つの事件を解き明かす安楽椅子探偵物の連作ミステリ。キャラミスっぽい内容ながら発想力に定評がある作者のセンスが遺憾なく発揮されており、アリバイ物が苦手な人にも楽しめる大山作品の入門編に相応しい一作だ。

第7位 三津田信三「謬霊の如き祀るもの」【14点】

刀城言耶シリーズの長編七作目。断崖に閉ざされた海辺の村で起きた怪談連続殺人を扱った本作は個々のトリックや村の秘密と有機的に繋がっている事件の構図もさることながら、何より壮大かつ人間性を無視した動機には空恐ろしさを覚えるに違いない。

第8位 麻耶雄嵩「友達以上探偵未満」【12点】

テレビ番組用に作者が考案した犯人当て「伊賀の里殺人事件」含む探偵を目指す女子高生コンビが三つの殺人事件の謎を解く連作。麻耶作品ではお馴染みの「名探偵とは何か?」というテーマに踏み込んだ「夏の合宿殺人事件」など読みどころの多い作品集である。

第9位 霞流一「パズラクション」／酒井田寛太郎「ジャナ研の憂鬱な事件簿4」／早坂吝「探偵AIのリアル・ディープラーニング」【11点】

「パズラクション」はロジックによる必殺仕事人、あるいは霞版虚構推理とも言うべき作品で昨今流行りの多重解決物の一つの答えとして興味深い内容となっている。「探偵AI」はAIだからこそ陥る問題を本格ミステリではお馴染みの趣向と絡め連作という形で唯一無二の成長物語に仕上げた現代本格とキャラ小説の融合的作品。「ジャナ研4」はミステリの年鑑にとられてもおかしくない「スウィート・マイ・ホーム」を収録したポスト米澤穂信の連作シリーズ四作目である。

《10位以下の作品》

【9点】似鳥鶏「名探偵誕生」

【8点】辻真先「深夜の博覧会 昭和12年の探偵小説」

【7点】小林泰三「ドロシィ殺し」

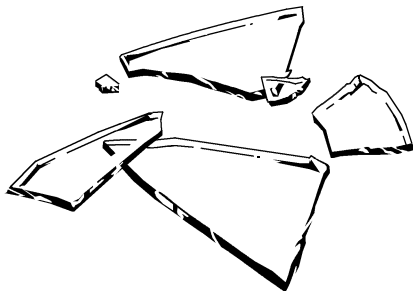
【5点】柄刀一「月食館の朝と夜」

【4点】古処誠二「生き残り」／似鳥鶏「叙述トリック短編集」／円居挽「京都なぞとき四季報 古書と誤解と銀河鉄道」

【3点】青柳碧人「浜村渚の計算ノート 8と1/2さつめ つるかめ家の一族」／飯城勇三「本格ミステリ戯作三昧」／川澄浩平「探偵は教室にいない」／倉知淳「皇帝と拳銃と」／倉知淳「ドッペルゲンガーの銃」／櫻田智也「サーチライトと誘蛾灯」／月原渉「首無館の殺人」／中村あき「ラスト・ロスト・ジュブナイル 交錯のパラレルワールド」／深水黎一郎「虚像のアラベスク」／古野まほろ「天帝のみはるかす桜火」／松本英哉「幻想リアルな少女が舞う」／円居挽「語り屋カタリ推理講戯」／連城三紀彦「悲体」

【2点】天祢涼「罪びとの手」／岡崎琢磨「夏を取り戻す」／酒井田寛太郎「ジャナ研の憂鬱な事件簿3」／深緑野分「ベルリンは晴れているか」

【1点】有栖川有栖「インド倶楽部の謎」／倉知淳「豆腐の角に頭ぶつけて死んでしまえ事件」／林泰広「分かったで済むなら、名探偵はいらない」／原寮「それまでの明日」／八槻翔「天空城殺人事件」



2018年度漫画・ゲーム・映像ミステリランキング

漫画、ゲーム、映像、その他を対象とした、ランキングです。対象期間、集計方法はミステリランキングと同様です。

各作品レビュー：麻里邑圭人

【総評】

今回のベスト5注目作は何と言っても総合ランキング初登場にして1、2位にランクインした根本尚「怪奇探偵・写楽炎」シリーズだろう。元々同人の時から評判の高いシリーズではあったが、今年の四月に文藝春秋から電子書籍化されたのを機により多くのミステリファンに知られることとなった。同人の方ではまだシリーズは続いているので、来年以降も商業ベースでのリリースがあることを期待したい。また4位にランクインした田村由美「ミステリと言う勿れ」はそのタイトルとは裏腹に極めてミステリ的技巧に優れており、作者の新境地として今後の動向にも注目したい。

第1位 根本尚「怪奇探偵・写楽炎3 蛸太郎」【16点】

元同人の本格ミステリ漫画シリーズ第三弾。有栖川有栖推薦だった第二弾に対し本作は二階堂黎人が推薦しており、表題作のいかにも二階堂が好みそうなおどろおどろしい演出がトリックの絶妙な目眩ましになっている点は一読の価値アリである。

第2位 根本尚「怪奇探偵・写楽炎2 妖姫の国」【13点】

元は同人誌で出た物を文藝春秋が電子書籍化した本格ミステリ漫画シリーズの第二弾。表題作は不思議の国のアリスを模した大がかりな誘拐が起きた理由が一瞬で腑に落ちる犯人の正体が秀逸で有栖川有栖が推薦するのも納得な傑作と言っていいだろう。

第3位 迫稔雄「嘘喰い」48巻【9点】

今年完結し、ウェブ上で無料公開もあり、TLで大流行した本作がランクイン。最後の名勝負であるハンカチ落とし編の佳境を描いた48巻。作中でも一二を争う衝撃的なトリックが炸裂し、成し遂げるために行われていた謀には感動すら覚えるだろう。

第4位 田村由美「ミステリと言う勿れ」3巻【8点】

事件以外も解決する饒舌な青年・久能整が探偵役を務めるシリーズの本作は2巻から始まった遺産相続を巡る一族の話がメインであり、さながら西澤

保彦と横溝正史を合体させたようなおぞましい事件の真相に迫っていく過程はスリリングの一言に尽きる。

第5位 天樹征丸／さとうふみや「歌島リゾート殺人事件」【7点】

あの金田一少年が金田一中年（！）になった「金田一37歳の事件簿」最初の事件である本作は「金田一37歳」というタイトルとオペラ座館四度目の殺人という一見ギャグとしか思えない設定を逆手にとった御約束破りが何とも痛快な作品だ。

《6位以下の作品》

【6点】小峯裕之「レイトンミステリー探偵社 ～カトリーのナゾトキファイル～file2 カトリーエイルと悪魔のドレス」

【5点】杉山小弥花「明治失業忍法帖」11巻／TYPE-MOON「FGO 虚月館殺人事件」／三谷幸喜「黒井戸殺し」

【4点】上田慎一郎「カメラを止めるな！」／筧昌也「黒い十人の秋山」／喜安浩平「悪魔が来りて笛を吹く」／城平京・片瀬茶柴「虚構推理」7巻

【3点】江藤俊司・三輪ヨシユキ「終極エンゲージ」5巻／加藤元浩「Q.E.D.iff」11巻／加藤元浩「C.M.B.」37巻／小峯裕之「レイトンミステリー探偵社 ～カトリーのナゾトキファイル～file18 モレントリー急行と3つの事件」／シドニー・シビリア「いつだってやめられる 10人の怒れる教授たち」／篠原健太「彼方のアストラ」5巻／スティーブン・ソダーバーグ「ローガン・ラッキー」／田村由美「ミステリと言う勿れ」1巻／田村由美「ミステリと言う勿れ」2巻／ナタウット・プーンピリヤ「バッド・ジョニアス 危険な天才たち」／野木亜紀子「アンナチュラル」／森翔太「ホラー映画で最初に死ぬやつ」／安田剛助「じけんじゃけん！」4巻／リン・ラムジー「ビューティフル・デイ」／るーすばーい・古屋庵「無能なナナ」3巻

【2点】岡本貴也「フォロワー（世にも奇妙な物語）」／加藤元浩「Q.E.D.iff」10巻／七月鏡一・杉山鉄兵「探偵ゼノと7つの殺人密室」2巻／安里麻里「氷菓」

【1点】赤尾でこ「レイトンミステリー探偵社 ～カトリーのナゾトキファイル～file8 1億ポンドは風と共に去りぬ」／香吹茂之「雄鳴館殺人事件」／河本ほむら・尚村透「賭ケグルイ」9巻／CM「名探偵ねる 怪盗クランキーからの挑戦状」／チャン・ロンジー「夏、19歳の肖像」／任天堂「名探偵ピカチュウ」／Navel「君と目覚める幾つかの方法」

投票へご協力ありがとうございました。